
さなぎ

千住夏樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

さなぎ

【Nコード】

N8653L

【作者名】

千住夏樹

【あらすじ】

一体いつの頃からこうしているのかさえ、もう思い出せない程、君は余りにも長くその姿を留め続けている。

時々、完璧な孤独の息苦しさに君は薄目を開ける。

しかし、そこは暗闇。漆黒の闇が支配する世界。

一瞬もがくけれど、君は諦め、また眼を閉じる。

君がその姿で、そこに留まっている理由を僕は知っている。
辛抱強く君は待ち続ける。

君が君のあるべき姿を取り戻すまで君はさなぎのままそこにいる。
まだ何も始まっていないのだと君は思う。

覚醒の時はまだまだ遠く、陽炎が揺らめく彼方なのだ。

一体いつの頃からこうしているのかさえ、もう思い出せない程、
君は余りにも長くその姿を留め続けている。

時々、完璧な孤独の息苦しさに君は薄目を開ける。

しかし、そこは暗闇。漆黒の闇が支配する世界。

一瞬もがくけれど、君は諦め、また眼を閉じる。

そして、固く閉ざされたままの幸福の香りをそのセピアに変色し
た記憶から嗅ぎ取るのだ。

ほんの束の間の幸福、愛されていたんだ、と君は反復する。

こんな姿になる前は、本当に愛されていたんだ、と声にならない声
で君は叫ぶ。

置き去りにした愛するものへの懺悔。

そして後悔の念に苛まれながら、断末魔の悲鳴に君は耳を覆う。

例え、固く心を閉ざしたとしても、強固な殻に閉じこもろうとも、
忌まわしい過去の記憶の呪縛から逃れることはできない。

美しいアサギマダラの羽根を引き千切る。

何度も、何度もその行為を繰り返す。

まるで、その行為が目的かのように、捕まえては引き千切る。

真夏の陽射しに雲母のように輝く透明な羽根に埋もれて君は激し
く射精するのだ。

若い芝生の匂い、新芽の香しさに君は眩暈すら覚える。

空は抜けるように蒼く、そして雲は真綿の感触で君を夢心地に誘う。

夏の記憶・・・鬱蒼とした森に反響する蝸の泣き声、不気味に沈黙する夕暮れの神社、物悲しい風鈴の音色、安楽の淵で打ち水する老婆の姿。

いつもの遊び場だった小川のせせらぎは束の間・・・さなぎ、水面が揺れる。

断末魔の叫び声・・・さなぎ・・・母の胎内のように暖かく、羊水に守られた・・・さなぎ。

終わりも始まりすらない場所、漆黒の闇に閉ざされ、カオスが渦巻く場所。

君がそこにいることを僕は知っている。

知っていることすら忘れてしまいそうだよ・・・さなぎ・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8653/>

さなぎ

2010年10月22日09時01分発行